

<説明書>

当院では硬膜外麻酔による無痛分娩を行っております。

1. よい点

ほかの痛み止めより効果が高い
局所麻酔のため児への影響が少ない
緊急帝王切開が必要になった時にも、同じ麻酔方法を使用することができる
分娩後の回復が速く、体力が温存できる

2. 開始する時期

痛みが強まり耐えられなくなった時点で開始する
陣痛が5分間隔で、子宮口が3-5cm開大した頃に始めることが多い

3. 除痛の程度

麻酔が効きすぎると足が動かなくなったり、陣痛も弱まってしまいます。
可能な限り痛みだけを取り除く麻酔を目指して行います。
そのため、個人差はありますが、少し痛みは残る可能性があります。

4. 方法

分娩台の上で横になり、背中を丸くする
背中を消毒し、腰のあたりに局所麻酔をする
そこから針を刺し、細いビニールの管（カテーテル）を挿入
カテーテルが入ったら針を抜く
そのカテーテルから麻酔薬（局所麻酔薬と鎮痛薬）を注入し痛みをとる

5. 分娩中のすごし方の違い

計画無痛分娩の場合は前日入院
歩行しない（尿意は無くなるので排尿は導尿で行います）
定期的に血圧を測定

6. 起こりうる問題点

低血圧
頭痛 約1%
鉗子分娩になる可能性が若干高まる
局所麻酔薬の血管内誤注入による痙攣
局所麻酔薬のくも膜下誤注入による広範な麻酔効果
硬膜穿刺による頭痛の出現（硬膜外ブラッドパッチが必要になる可能性）
感染、出血
神経障害（異常感覚）

<同意書>

私は、無痛分娩の必要性とその内容、これに伴う危険性等について、十分な説明を受けましたので、診療行為を受けることに同意します。
なお実施中に緊急の処置を行う必要性が生じた場合には、適宜処置されることについても同意します。

令和 年 月 日

患者氏名（署名）

同意者氏名（署名）

（患者との続柄）